注目のホテル

34年の時を経て、日本初のデザインホテル「ホテル イル・パラッツォ」が生まれ変わる 新たな魂が吹き込まれた「Re-Design プロジェクト」とは

1989年、福岡に世界が注目するホテルが誕生した。イタリア語で「宮殿」を意味するこのホテルを手掛けたのは、建築界のノーベル賞といわれる「プリツカー賞」を受賞した20世紀を代表するイタリア人建築家、アルド・ロッシ氏と、日本を代表するインテリアデザイナー、内田繁氏。開業時には日本はもとより海外からも熱い視線を集め、1991年には「アメリカ建築家協会名誉賞」をアメリカ国外で初受賞した。しかし、その後オーナーが変わり、時間の流れと反比例するかの如く、輝きは薄れることに。しかし、2016年にいちごが施設を取得。コロナ禍を経て大規模改修を行ない、2023年10月に新生「ホテル イル・パラッツォ」はグランドオープンした。今回はプロジェクトを主導した面々に「Re-Design プロジェクト」について伺った。

取材・構成：武田雅樹　文：中野智恵
写真：高倉勝士　デザイン：森崎まき

レジェンドホテルを“今”という時代のフィルターを通して再生

――長谷部さんは開業時から内田さんと仕事をしていらしたそうですが、まずは1989年ホテル開業までのストーリーを教えてください。

長谷部　ここはアルド・ロッシが日本で初めて手がけた作品で、内田にとっても初めて取り組んだホテルでした。当時はインディペンデントのデザイナーがホテルを手がけるという事例はない時代でしたので、画期的なプロジェクトでしたね。内田自身はホテルが好きでいずれ手がけてみたいと考えていましたが、プロジェクトは地域開発という大きなビジョンを掲げ、シンボリックな建築が必要だったのでアルド・ロッシに声をかけたそうです。彼は日本での実績はなかったのですが「いいよ！」と快諾。当時のドローイングにはホテルを中心にウォーターフロントの開発まで描かれていて、このプロジェクトがいかに壮大なものだったのかということが伝わってきます。

――今回、ふたりの巨匠の魂を受け継ぐべく「内田デザイン研究所」が設計を担当されましたが、その経緯とは。

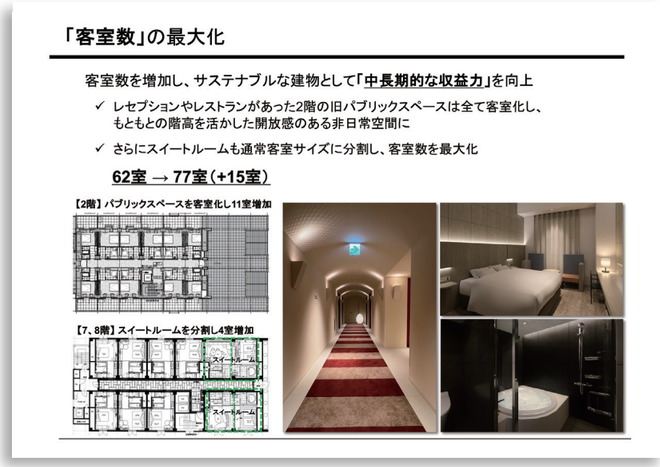
細野　2016年にホテルを取得した際、各方面から「いちごさんがイル・パラッツォを取得したの？」という声が聞こえてきました。歴史を紐解いてみると登場人物がレジェンドばかりだったので、これは心して改修に取り組まねばと長谷部さんを訪ねた次第です。事務所に足を踏み入れると、アルド・ロッシのドローイングが飾ってあり、それを見た瞬間、ここにお願いしようと覚悟を決めました。そうすることが福岡でこのホテルを愛してくださった、そしてこれから愛してくださる方に向けて一番いい選択肢なのだろうと確信したんです。

長谷部　この遺伝子を受け継ぎ、新たな鼓動を生み出そうとする時に、血筋を辿って声をかけていただいたことは本当に嬉しかったですね。プレッシャーもありましたが、うちが担当することが内田やロッシに対してもいいだろうと思いお引き受けしました。また、いちごさんの「心築（しんちく）」（※1）という事業に共鳴したというのも理由のひとつ。

細野　ありがとうございます。うちは心築事業の一環としてオリジナルブランドホテル「THE KNOT」を手がけてきました。その実績があったからこそ、長谷部さんとも会話しやすかったのかもしれません。

――改修プランはどのように進んでいったのでしょうか。

北﨑　ホテルとしては2009年にリニューアルされていましたが、外装も含め設備はかなり痛んでいました。だからといって設備を一新したり、外装を塗り直すだけの改修では収まらない価値がこのホテルにあると感じていました。



長谷部　改修にあたって、元々あったものをリスペクトしながら今という時代に生まれ変わらせるというテーマを探っていきました。当初、2階はかつてのロビーを再現するプランもあったのですが、客室にしたいというリクエストで、パブリックスペースは地下に集約。パブリックスペース「エル・ドラド」にはアルド・ロッシが手がけた同名のバーから黄金のファサードを移築、手前には内田が晩年に手がけたインスタレーション作品「ダンシングウォーター」を配置し、オマージュを表現しました。

北﨑　客室は2つのスイートをなくし、4部屋に分けました。もともとこのホテルはスタンダードの客室でも27～35m2とゆったりとしていたので、客室自体の広さを大きく変えるような改修が必要なかった分、内装に注力できたと思います。

ワンファイブホテルズ㈱
代表取締役社長　北﨑堂献氏（左）

Profile ／1996 年グランドハイアット福岡、1998 年ザ・リッツカールトン大阪、その後、チェーンレベルのレベニューマネジメントや運営管理に従事。2016 年いちご㈱入社。AI による価格設定システム「PROPERA」を開発。いちご㈱ホテル事業部長、14 ホテルを運営するワンファイブホテルズ㈱の代表取締役社長を兼任。

いちご地所㈱
代表取締役社長　細野康英氏（中）

Profile ／藤和不動産㈱（現三菱地所レジデンス㈱）入社後、コンサルティング部門、マンション企画・販売、リゾート部門等に約 10 年間従事した後、2002 年よりゴールドマン・サックスの不動産投資部門で日本における様々なタイプの不動産投資、M&A 案件のバリューアップ等に従事。2015 年 9 月いちごに入社後、いちご地所にて不動産アクイジション、ホテルの心築事業を推進。2017 年 3 月よりいちご地所㈱代表取締役社長に就任。

内田デザイン研究所
代表　長谷部匡氏（右）

Profile ／内田繁とともに、建築、インテリア、家具、プロダクトなどのデザインディレクションを手掛け、出版、展覧会、地域振興、教育なども通して、デザインと社会と文化の視点から数多くの企画を実施。2016 年から内田デザイン研究所の代表を務め、フルール・バビリア（香港）、ENSO ANGO（京都）、三輪湯河原（湯河原）、MUNI Kyoto、薄型腕時計（スイス）、家具 KHORA シリーズなど、つねに新しい視点からデザインのあり方について提案している。

長谷部　ホテルができた当時、内装に関して内田は「日本人が泊まるんだから、日本人にとって心地いい空間にする」とロッシに口を挟ませなかったんですね。当時はインバウンドもいなかったですから、客室によっては和室もあった。しかし、今の時代には今にあった心地よさがあるので、区画は同じでも違う快適性を追求しました。エッジの効いたラウンジがリビングであるのならば、客室は寝室。色を多用せず木と柔らかな色彩でまとめました。また、コンセプトである「Re-Design」に則り、内田がデザインした家具や照明をつくりなおして配置。昔の韻を踏みながら、今の時代に合わせた空気感をつくりだしたというわけです。

細野　僕らは言いたい放題だったけど、長谷部さんは本当に重責だったと思います。今までホテルの改修を手がけてきて、予算って当初よりオーバーするんですよね。そこが難しいところで、予算はできるだけ膨らませたくないけれど、それを死守したが故に本来のコンセプトとかが実現されないままになってしまっては意味がない。今回は私も北﨑もそうならないよう自浄作用を働かせましたね。総工費は約 18 億円かかりましたが、長期的投資の視点に立って判断すると、中途半端なモノをつくるのはよくないと。コロナ期間があって、どうあるべきかというのをじっくり考える時間があったというのもよかったかもしれません。

長谷部　我々もロングライフデザインにしたいと思っていたので、その考え方はありがたかった。20 世紀はスクラップ＆ビルドが主流でしたが、21 世紀はサステナブルな時代。新しい視点で古い資産を蘇らせていくというのは面白いと思いますし、それに対してデザインがどう答えられるかというのもやりがいのひとつかと。

人と人が交わり
継続的に進化を遂げるホテルへ

――このホテルが描くこれからの未来について教えてください。

細野　開業当時のような期待感を街の人に届けることができたら嬉しいですね。また、福岡は独自の発展を遂げていて、安心して投資できる街という印象があります。このホテルが元気なこの街で、どう受け入れ、育っていくのか楽しみです。

北﨑　福岡はホテルラッシュですが、唯一無二の価値を提供できると自負しています。パブリックスペースでは朝食、ランチ、ディナーとフリーアクセスのブッフェにしているので、20 代 30 代のママ世代にも使い勝手よく楽しんでいただけたらと。夜は夜で、印象がぐっと大人の雰囲気に変わるので、宿泊ゲストと地元の人が交わる場になっていければ。ここは“高級ホテル”とか“ライフスタイルホテル”というようなカテゴライズされた表現には当てはまらないホテルなので、それを丁寧に伝えていきたい。

長谷部　34 年前、ホテルってデニムを履いていくような場所ではなかったですが、ここは違っていました。さまざまな価値観や存在で自由を認め合っていく場所として都市の中に存在し、街の人たちが面白がって使ってくれていました。ここが当時のスピリットを受け継ぎ、自由への許容あるホテルになってほしいですね。また、ホテルは造形的に都市と繋がることも大切ですが、人と人が有機的につながっていく拠点という役割もあると思うのでギャラリーとかできたら面白いんじゃないかな。

北﨑　ギャラリーもいいですね！年内は予定しているすべてのサービスが提供できるわけではないのですが、段階を踏んで徐々に開始していこうと考えています。ホテルもホテリエも丁寧に大切に育て、継続的に進化していけたらと。また、以前あった 4 つのバー（※2）の場所をどうするかも今後の課題です。今、弊社が手がける隣の「ザ・ワンファイブテラス福岡」と「ザ・ワンファイブヴィラ福岡」のエントランスにゲストがくつろげるデッキをつくったのですが、ホテル同士の回遊性も高めていきたい。

長谷部　それ賛成！建物が違っても環境的につながっていくのはいい。

細野　いろんなアイデアがたくさん出てくるといいですし「ホテル イル・パラッツォ」の第二章として、新たな歴史を紡いでいけたら。これからもストーリーを続けていきましょう。

※1　心築（しんちく）：「心で築く、心を築く」を信条とし、現存不動産に新たな価値を創造する事業
※2　アルド・ロッシ、倉俣史朗、ガエターノ・ペッシェ、エットーレ・ソットサスが手がけた

改装 DATA

Re-Design プロジェクト概要：
20 世紀を代表する世界的な建築家イタリア人のアルド・ロッシ氏と日本を代表するインテリアデザイナー内田繁氏のタッグにより、日本初のデザインホテルとして 1989 年に誕生したホテル イル・パラッツォは、福岡市の春吉地区が持つそれまでのイメージを一変させ、都市における建築デザインの力を示したことでも評価されました。当社は、内田繁氏の逝去後も同氏の思いやデザインの理念を受け継ぐ内田デザイン研究所をパートナーに、2022 年 1 月より大規模改修を進めてまいりました。歴史的建造物としての価値を再認識し、当初の理念を承継した「Re-Design プロジェクト」によって、ホテル イル・パラッツォは、再び新たな時代を歩み出します。

改装内容：
・地下 1 階　レセプションとラウンジ改修、パティスリー厨房新設
・1 階　エントランス及びバックオフィス改修
・2 階　客室新設
・3-8 階　客室全面改修
・エレベーターの新設と延長
・上記に伴う電気設備改修と機械設備改修
・外装補修

改装年月日：2023 年 10 月 1 日
改装期間：2022 年 1 月～ 2023 年 9 月
改装面積：4,281.81㎡
総 工 費：18 億円
デザイン・設計：内田デザイン研究所
設計協力：マツムラアーキテクツ
設備設計・構造・許認可協議：山下設計九州支社

HOTEL IL PALAZZO

ホテル概要

所 在 地：福岡県福岡市中央区春吉 3-13-1
事業会社：いちご地所㈱
経営会社：いちご地所㈱
運営会社：ワンファイブホテルズ㈱
客室構成：全 77 室。スーペリアクイーン（27㎡）24 室、デラックスキング 42 室、スーペリアクイーンバルコニー付 4 室、デラックスキングバルコニー付 7 室
付帯施設：ピアッツァ／駐車場
敷地面積：2,517.31㎡
延床面積：5,788.39㎡
客室価格：30,000 円（平均）